

派遣報告(視察・調査の経過及び感想)

藤井 隆弘

- ◎ 派遣先 (1) 大分県大分市 7/23(木) 15:00~17:30
(2) 大分県豊後高田市 7/24(金) 10:00~11:30

1. 視察・調査の経過及び感想について

(1) 大分県大分市 7/23(木) 15:00~17:30

○「小中一貫教育、隣接校選択制」について

大分市役所に到着。大分市議会事務局次長兼総務課長 奈良英治氏、同総務課主事 宮川智博氏 大分市教育委員会参事 山本豊氏、同教育部教育企画課課長 佐藤修氏、同学校教育課参事 佐藤浩介氏の出迎えを受ける。

大分市は、県のほぼ中央に位置し県庁所在地である。面積502.39km²(倉吉市は272km²)、人口477,853人である。現在、100年に一度といわれる大事業「大分駅周辺総合整備事業」が着々と進展する中、平成25年7月にはホルトホール大分が開設、平成27年4月には新しい駅ビル「JRおおいたシティ」や大分県立美術館OPAMがオープンし、新しい大分として変貌を遂げている。

教育委員会教育企画課より「隣接校選択制」について、学校教育課より「小中一貫教育」について説明を受け、質疑を行う。

<隣接校選択制>

◎隣接校選択制は、小・中学校とも居住地によって定められた「指定校」の他に、指定校の通学区域に隣接する通学区域の学校(隣接校)への入学を希望することができる制度。

(1)なぜ、選択制か

①多様化する市民ニーズへの対応

校区の複雑性に伴う通学距離や安全性、人間関係などの要望

②市民協働のまちづくり

③学校教育の活性化

国立付属小中学校、県立及び私立中学校との競争、教育活動の充実、教職員の意識改革。



(2)対象者：小中学校の新1年生

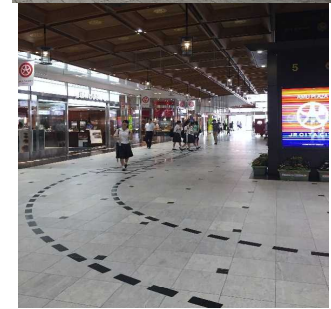
(3)選択申請可能な学校：1校のみ

(4)受け入れ定員：余裕教室や児童生徒数等に応じ校長と協議して決定。5~15名。

(5)申請者数 平成19年~平成27年の推移
41, 62, 219, 287, 235, 248, 300, 292, 314と増加。

(6)申請理由

①「通学距離・安全性」②「友人関係」③「学校環境や特色」で毎年同じ傾向である。



<小中一環教育>



◎子どもたちの生きる力の育成をめざし、小中学校教職員が共通の教育観・指導観を持ち、義務教育9年間を見通した系統的な教育を行うため市内全中学校区において推進している。

- ・ 共通して取り組む内容
 - 合同研修会や情報交換会の実施
 - 児童生徒の合同行事、交流行事の実施
 - 学校公開、学校だよりなどを通じた情報発信
 - 学習・生活のきまり（9年間を見通した）

◎平成27年度の取

り組み

- ・ 併設型小中一貫教育校（賀来小中学校）
 - 9年間を見通した系統的な教育課程
 - 前期（4年）中期（3年）後期（2年）の教育活動
 - 第1学年から英語科を実施
 - 中期での一部教科担任制 キャリア教育の推進
 - 公開研究発表会の実施
- ・ モデル校（7中学校区）、推進校（2中学校区）
 - 学校、地域の特徴を活かした系統的な教育課程
 - 小中学校間での乗り入れ授業
 - 公開研究発表会の実施



●今回は「小中一貫教育、隣接校選択制」についての視察であったが、一つの指標である学力面を見ても、これらの取り組みを進めた中で結果として向上が見られている。大分市の教育委員会及び学校が危機感（学力面・生活面での）を持った取り組みであったことが、教職員の意識改革・やる気といった面で効果が表れていると考えられる。

○「ホルトホール大分」について



大分市役所を後にし、大分駅方面へ。「ホルトホール大分」を視察することにした。ホルトホール大分は、大分駅南側にある文化交流施設で、平成25年7月20日にオープンした。事業主体は大分駅南まちづくりグループで管理運営はホルトホール大分未来共同事業体（指定管理者）である。延べ床面積は38,400㎡、地上4階地下1階建てである。

施設内容としては、大ホール（1201席）、小ホール（202席）等の文化関連施設、市民図書館、サテライトキャンパス大分、まちづくり情報プラザの教育・情報関連施設、大分市産業活性化プラザ（創業支援ルーム）、人権啓発センター、地域子育て交流センター、中央子どもルーム、保育所、母子支援プラザ、ウォーキングプール、トレーニングルーム、キッチンスタジオ等の福祉・健康関連施設等を有している。そのほか、3階部分には駅南屋上公園、カフェレストラン、サテライトスタジオ等もある。文化・福祉・教



育・産業等多機能型複合施設となっている。

視察に訪れたのは平日であったが、ゆったりとした施設の中、テーブルで学習をする高校生、楽しい時間を過ごす親子連れ、レストランで軽食を取りながら語らうグループ等大分市民の集いの場であることが感じられた。また、3階のシンボルロードから出入りできる屋上公園からは大分駅周辺が見渡せた。

駅南側（上野の森口側）はもちろん、駅の北側もゆったりとした造りとなっていて、まさに「100年に一度といわれる大分駅周辺総合整備事業」という言葉がぴったりとしていた。まちづくりの方向性・ビジョン、町の勢いを感じた。



(2) 大分県豊後高田市 7/24(金) 10:00~11:30 「学びの21世紀塾事業」について

JR大分駅から特急ソニックで宇佐駅へ。宇佐駅から迎えに来ていただいた車で豊後高田市へ。約20分ほどで目的地の旧真玉町にある豊後高田市の支所(教育委員会)に到着。市議会議員 安達隆氏、教育長 川野潔氏、教育委員会学務係長 田中良久氏等の出迎えを受ける。



豊後高田市は、国東半島の西側に位置し、総面積は面積206.60km²(倉吉市は272km²)、人口23,433人である。豊かな自然と温暖で過ごしやすい瀬戸内気候に属し、歴史的には西瀬戸地域の交流の結節点の役割を果たしてきた。教育委員会関係では、市立の幼稚園2園、小学校10校、小中一貫校1校、中学校5校を有する。教育委員会学務係長 田中良久氏より「学びの21世紀塾事業」について説明を受け、質疑を行う。

<学びの21世紀塾>

◎子どもたちの確かな学力の定着、体力作りの機会を提供し、学習機会や場を平等に保障して、あらゆる格差をなくしていくことを目的に開塾された。

①いきいき寺子屋活動事業

・72講座148教室で運営。塾生2740人、指導者157人(市民等75・教職員等82:1時間当たり1500円の報酬あり)、会場ボランティアは229人(教職員170, 市民59)が登録。

<講座内容>

○土曜日講座: 毎月第1・第3・第5土曜日

土曜寺子屋講座、英会話教室、パソコン教室、そろばん教室、少年少女合唱団

○中学校水曜日講座(数学・英語)

毎週水曜日の6時間目~中1・2年生を対象

○中学3年生夏期・冬季特別講座

○寺子屋昭和館、寺子屋プラチナ館

○テレビ寺子屋講座

学習機会を幅広く提供~

(昭和の町は教育のまちです)「学びの21世紀塾」

平成22年1月より放送ケーブルテレビ(加入率90%)で

②わくわく体験活動事業

○週末子ども育成活動 第2・4土曜日に公民館を中心に活動

○ステップアップ・スクール 中期休業中に宿泊型社会教育施設を活用して実施

③のびのび放課後活動事業

○スポーツ大会の開催

○スポーツの活動の支援

●豊後高田市の視察は「学びの21世紀塾事業」がテーマであった。地域の教育力に



目がいくが、やはり、学校・家庭・地域の力を結集して、子どもたちの伸びる力を支援していくことが大切である。特に、学校での学習、教師の指導力・意欲の向上が大切であることが質疑の中からも出ていた。学力面の向上には、このことが大切だと説明されたのが印象的であった。

2. 視察・調査を終えて

今回の視察は教育をメインとした。「視察・調査の経過及び感想について」に載せたことはもちろん、他にも沢山のことを学ばせて頂いた。われわれの視察に際し、時間を割き対応していただいた大分市・豊後高田市の職員の皆様、到着から出発まで「おもてなし」の心で細やかな心配りをして頂き、本当にありがとうございました。

視察を通して本市に還元できることを取り入れ、市民の皆さんにお役に立てるよう精進いたします。